

第9回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2023年1月6日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 36名
- ◇内容 学習指導案の相互検討②

【ルーム1】担当：中澤静男

(1) 奈良市立平城小学校 教諭 奥戸貴裕先生

小学校第6学年 総合的な学習の時間「私たちの住む平城地域の魅力を多くの人に伝えよう」
日記を書かせているが、地域に関する記述がない。もっと地域に目を向けさせたい。

単元の目標

- ・平城地域にはどんな魅力のある場所があるかを理解する。(知識・技能)
- ・平城地域にある魅力ある場所を自分の言葉で表現する。(思考・判断・表現)
- ・平城地域に関心をもち、魅力を発見し、それを多くの人に伝えようとする態度をもつ。
(主体的に学習に取り組む態度)

単元展開の概要(全36時間)

- 1学期：修学旅行後、和歌山の魅力リーフレットを作成し、奈良交通者に評価してもらう。
- 2学期：平城地域の魅力を発見しリーフレットにまとめる
- 3学期：保護者参観などで発信する

〈意見交流〉

- ・用紙を4分割して、4つの魅力を見つける。人物の営みに着目させるために、いきなり地域の魅力を見つけようよりも、モデルとして1つ目は 学級全体で見つけ、残りの3つを自分で見つけるのがよい。
- ・奥戸先生の考えているリーフレットに記載する「魅力」イメージ(定義)とは?
観光リーフレットではなく、児童がこれまで過ごしてきた中で、自分の中のストーリーを自分の言葉で語るときに、表出される「地域の魅力」が理想的。ストーリーと共に語られることで、読み手の心にささると考えている。
- ・卒業を目前にした児童にとって、心のふるさとをつくる学びにもなるだろう。

(2) 平群町立平群中学校 教諭 井阪愛子先生

中学校3年生 総合的な学習の時間「子どもから世界を変えていこう」

単元の目標

- ・子どもが健康で幸せな成長を保障するためにある子供の持つ権利を理解した上で、世界の子供たちに取り巻く問題を知り、問題の解決に向けた知識や技能を身に付けようとする事ができる。
- ・世界の子供たちに取り巻く問題について、自分やグループで課題を立て、情報を集め、整理・分析して課題解決に向けて考えることができる。
- ・世界の子供たちに取り巻く問題を自分の事として捉え、自分がこの世界をよりよくしていく主体者として課題解決に向けて社会に参画しようとする態度を身に付けることができる。

単元展開の概要（全6時間）

※子どもの権利条約を子ども自身が学ぶことが大切（キックオフイベントより）。

子どもの権利宣言（1959年）から子どもの権利条約（1989年）まで30年もかかっている。←大人に任せておけない。

ユネスコの子どもの権利条約カードで、ダイヤモンドランキングを行う。グループでの意見交流で、他者のさまざまな意見があることに気づく。

カードを選択し、その内容を深く調べる。インターネットの活用法はできている。そこでの内言をまとめて外言として発信するのは苦手な生徒が多い。

生徒同士による相互評価行う。

知識構成型ジグソー法を用いて、同じ問題意識を持つ生徒が集まり、学びを深める

〈意見交流〉

- ・ESDでは行動の変革を促進するが、このような学習の場合、行動化は困難である。発信だけでもよいのではないか。
- ・受験勉強のためだけの学びではない、本来の学びの目的は世界をよりよくするための学びであることに気づかせる。
- ・学習を価値づける教師からの声かけ。
- ・周囲の人たちと自分がつながっていることから、世界の人たちと自分がつながっているという意識を自覚させることが大切。

（3）奈良市立三碓小学校 教諭 藤岡晃宏先生

小学校第5学年 総合的な学習の時間

「給食の残飯を減らそう ～食品ロスを減らすために自分たちのできること～」

単元目標

※給食の残飯を減らしたい。

- ・世界や日本の食について食品ロスに着目し、食に携わる人々への聞き取り調査や給食の残飯を調べることを通して、食品ロスを減らす取り組みについて理解できる。
- ・生産者や食に携わる人との関わりを通して、学んだことをまとめ、表現したり、行動に移したりすることができる。
- ・食品ロスに対して関心を持ち、生産者、調理員、栄養士の先生の取り組みを知ることで、それらの人の思いや姿に触れ、食を大切にするために自分にできることを考えようとしている。

単元展開の概要

- ・児童が発案した「おかわりチケット」による一定の効果はみられるが、まだまだ残飯が多いという実態がある。→ 子どもたちが発信・スタートする学びを進めていきたい
← 食べる量が少ない児童が肩身の狭い思いを持つことがないように配慮を行う。
- ・家庭科：食品ロスについて学ぶ、賞味期限と消費期限を学習し、日ごろの食品購入を振り返る。
- ・総合：食品ロスの現状、原因、問題などについてグループで調べまとめる。
- ・食品ロスを減らすために自分ができることを考える
- ・栄養士の先生をゲストティーチャーに招く
給食室で行われている残飯を出さない工夫
残飯があるときの気持ち、どんな気持ちで給食を作っているか

食品ロスを減らすためにできること（学校）と（家庭）

- ・国語「よりよい学校生活のために」 三碓小学校全体の残飯を減らすために
ポスター・スライド・アンケートの作成 アンケートの集計
- ・米農家の話を聞く

〈意見交流〉

- ・本当は米農家へのインタビューは、栄養士・調理員さんの話の後に入れたかった。
- ・ルールではなく、自分の考えで行動を変えていくように促す
- ・「食を楽しむ」をつき詰める ← 同調圧力・根性論ではなく
- ・食を楽しむとは、みんな（調理する人・生産する人・食べる人）が **HAPPY** になること

【ルーム2】担当：大西浩明

（1）屋久島町立安房小学校 教諭 貴島三実先生

小学校第5学年 総合的な学習の時間「森で学ぶ ～私たちの住む屋久島の森を知り、守ろう～」

社会科の学習と関連させる 地域の木材、木工品に触れる

屋久島の森林環境や関連産業について調べる 「木を切るのはいいこと？」

ゲストティーチャー（林業、森林管理署、木工品づくりに関わる人）

林業の現場や製材所の見学 → 好き勝手に切っていいわけではない 仕事がつながっている

「持続可能な森林をつくるために自分たちができることは？」を考えさせる

〈フロアから〉

- ・屋久島の木材だからこそそのすばらしさを感じさせたい。
天然林と人工林の区別をきちんとして
- ・「ひろげる」にもっと広がりや深まりのある活動を取り入れたい
観光客が間伐材を使った商品を買えるように
プラスチックでできているものを木の製品に変えるなら → 商品開発
実際に使っている人の思いや考えを聞いてみるのもいい
- ・「プラスチックの便利だけど地元の木でできているのもいいね。」の、何がどう「いい」のかを考える
ことで、より具体的なよさに気づけるのでは → 屋久島の価値に気づけるのでは

（2）菊池市立菊池北小学校 教諭 稲葉淳先生

小学校第5学年 総合的な学習の時間「米づくりを通して、お米のよさを伝えよう」

社会科「米づくり」の単元ときっかけに

これまで5年生は、地域の方と関わりながら毎年米づくりを行ってきている

つくった米を販売し、義援金をおくったりしてきた

昨年度の5年生の掲載されていた新聞記事（ウクライナへの寄付）を見せる。「米作りをして、販売した売り上げの一部を寄付したという事実から自分たちはどうしていきたいか」という課題をもって活動をはじめようとする。

〈フロアから〉

- ・昨年の5年生の様子を見るだけで子どものモチベーションになるだろうか
- ・ESDの授業として考えるなら、
途上国における貧困や飢餓の問題と絡めたりできると思う

グローバルな視点を入れるといいのでは

社会課題の解決を目指したものにすると ESD の授業らしくなると思う

- ・相互性として挙げている「農業生産は、自然環境との関わりがあること」の中に、環境（地球）とも関わりがあるという視点が入れば、一気に ESD の授業になってくるはず

(3) 屋久島町教育委員会 ESD グローバルアドバイザー Andrew Zoll 先生

小学校 6 年生 英語「My Favourite Animal and I (好きな動物と私たちの繋がり)」

3 時間のワークショップ お気に入りの動物をきっかけに 1 学期理科の食物連鎖について考える

“New Horizons”の単元「We all live on the Earth」の中で行う

各自、好きな動物とその生息地や食料源について調べ、英語で説明させる

どの動物でも、食物連鎖の中でプラスチックが入ってくる場所があることに気づく

マイクロプラスチックに関するビデオ視聴

動物がプラスチックを食べないように、私たちにできることは？

<フロアから>

- ・動物がプラスチックを「食べる？」というのは、子どもたちにとって大きな驚きになる
それが自分たちの身に降りかかってくることや、自分たちのせいであることに気づける
- ・プラスチックは便利だが、そもそもそんなにプラスチックが必要なのかを考えさせたい
- ・3 時間でできる内容かと疑問に思ったが、3 時間でできる内容になっているところがいい
- ・英語と ESD とのつながりは難しいが、これなら自然な形でできると感じた

【ルーム 3】担当：河野晋也

(1) 奈良市立平城西小学校 教諭 藤川由佳先生

小学校第 4 学年 総合的な学習の時間「シカと共に生きる奈良のまち」

奈良のシカについて「かわいいだけでは済まされない」と感じる人が多いという点に着目してつくった実践。特に、身近な課題を取り上げること、問題解決型の学習を行うこと、ICT を活用することの 3 つを重視して構想した。奈良市の中心部に住む児童ではなく、少し離れた地域の児童を想定して設計した。

<フロアからの意見>

- ・奈良のシカに関わる問題は、様々な表れ方をする。多面的・多角的に捉えることで、問題がどんどん複雑化していくと思う。問題解決型の授業をする上で、どのような問いを子どもが持つと想定するのがとても大切だと思う。主になる問は『奈良のシカ』と共に生きていくために、自分達はどのようにしたらいいのかを考えることだと思うが、“共生を妨げる問題”をなにだと考えるのかによって、授業は大きく変わると思う。
- ・社会科ではなく、総合的な学習の時間とした意図がより明確になるとよいと思う。どのような教科横断的な取組を想定し、どのような探究をさせようとしているのかが明確になるとよいと思う。
- ・同じ奈良市内の小学校とはいえ、中心部でない学校の児童にとっては、シカは珍しい存在。人と鹿との適切な距離について考える機会にしてほしい。

(2) 生駒市立生駒小学校 教諭 竹田光陽先生

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案「地域の良さを発見し、応援しよう」

地域の商店街の人との出会いを通して、まちを大切に考えている人たちの思いに気づかせ、地域の魅力やその活性化のために自分たちにできることを考え、行動化をすすめる実践。小学校3年生なりにできることを実践していくことが難しかったが、地域の人や保護者と協働して実践を進めることができています。

<フロアから>

- ・子どもたちの行動（商店街にポスターを掲示するなど）について、ほかの学年や保護者からフィードバックをもらうことができていたのはよいと思った。次も続けてやっていこうという気持ちになると思う。
- ・自分が実践するときにも出口をどうするか迷うので、今回のように地域に働きかけてポスターを制作するという方法は参考になる。
- ・地域の活性化はたしかに持続可能な社会づくりにつながると思う。でも、人が増えればよい、もっと買い物する人が増えればよい、というだけだと経済中心の考え方になってしまう。「理想の商店街のすがたとはどんなものか」「いま商店街の何が問題（よい）だと考えるのか」を3年生なりに見付けられることが大事だと思う。

(3) 福岡市立西花畑小学校 教諭 椎葉拓朗先生

第1学年 生活科学習指導案「じぶんでできるよ」

家庭生活について調べたり尋ねたりすることを通して、自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家族のことや家族のよさ、自分でできることなどを見つけ、自分の役割を積極的に果たすことを主な目標として構想した。小学校低学年でのESDの在り方としてどのような展開が適切かを考えながら実践に取り組んでいる。

<フロアから>

- ・子どもの効力感が育まれることがまず大切な単位だと思う。やってよかった、うれしい、という気持ちを大切にしたい。保護者の方と連携して、幸福感を高めていってあげたい。できるようになったことを可視化したり、段階的にクリアできるような工夫（ルーブリックなど）も考えられる。
- ・家庭内の仕事の偏りに目が向く可能性を考えて、ジェンダー平等を入れているが、家庭事情にもよるところが大きく、「よい」「悪い」と安易に判定しないよう配慮していくことが必要だと思う。
- ・公平性「年齢や体力に見合った役割がある」という点を挙げているのが良いと思った。家族一人一人に均一に仕事が割り振られることが公平ではなく、その人の能力やできることを考えた上で、「自分がした方がよいこと」を探るのが家庭の仕事への取り組み方として大切だと思う。
- ・資質・能力の「未来像を予測して計画を立てる力」について、低学年なので自分に振る舞いで近い将来にどんな影響があるかを考えることで十分ではないか。たとえば、「今日わたしがこのお仕事を手伝ったら、あしたお母さんがよろこぶかな」「こうやって洗濯物をたためば取り出すときに取りやすいかな」など。そういう思考の積み重ねが、発達段階の成長に伴ってより先に表れる影響を考えることができるようになると思う。
- ・関連するSDGsとして、家庭から地域へ広がっていくという点から11番「住み続けられるまちづくり」も関わるのではないかな。

【ルーム4】担当：加藤久雄

(1) 奈良市立伏見小学校 教諭 梁川千尋先生

総合的な学習の時間「災害に強いまちづくり」

- ・すでに実践を進めている。(①～⑨)まで
- ・修学旅行で姫路方面に行くことになったので地震災害について現地学習を行った。授業参観では、修学旅行に向けた事前学習を発表した。
⑤⑥については実際には行うことができなかった。

○意見・感想等

・避難所運営ゲームHUGについて

体験したことがある参加者から、宮城の小学校の視察で、HUGを体験後に小学校の備蓄品を見学するという実践を紹介があった。災害時に子どもたちが避難所の運営を担う可能性があること、卒業後に学校の備蓄品のことが記憶に残って、未来に向けての備えにつながるのではないかという意図で行われていたと紹介された。

・授業最後の提案について

どのような形で提案するつもりなのかという質問に対して、行政や地域に対して何かしらの提案ができたかと考えているようだが、実際には悩んでいるとのこと。質問者からは、身近にできることと行政等へ提案できることの2つの方向性があるので、両方が伝えられたら良いのではという提案があった。加藤先生から、大牟田の「子ども民生委員」の事例の紹介があり、具体的な行動化につながると良いとの助言があった。また、学校が避難所となるのであれば、現状で学校が避難所になることを想定した上で、改めて学校内の状態を確認し、それを児童たちが整理し、その視点を持った上で、児童それぞれの家の防災について確認して提出させるなどするのも良いのではと提案があった。東日本大震災後に学校が避難所として活用されていた状況を考えて、学校を避難所であることを基本として考えておくことが大事ではないかという意見もあった。

・児童の行動変容について

授業を通じて、子どもにどのような変容が見られたか。という質問に対しては、過去の震災について調べて発表したのち、現地学習で当事者の方の話を聞いて心打たれる様子が見られ、児童からも防災について学びたいという感想が出ていたが、その後、一旦平和学習が入ってしまい、防災の学習がうまくつながっていない。

(2) 曾爾村立曾爾小中学校 教諭 小谷太一郎先生

中学校3年生 国語

全体(16時間):以下概要

- 1.自分自身と地域のつながりを感じるため、曾爾の良いと思うところを課題に作文を書く。
- 2.地域の魅力について、行政の発行しているパンフレット等を参考に再度整理する。
- 3.実際に地域をよくするために活動している方々の話を聞く
- 4.他地域の地域活性化の取り組みを調べて批評文を書く
- 5.地域に対して自分達でできることについて意見交換を行う
- 6.実際にできることに取り組んでみる

※1～4まで実践済み

○意見・感想等

・生徒数や高校進学後の状況について

人数は10人。進路はバラバラで曽爾村に残るのは少数。全寮制の高校や引っ越しする。曽爾から離れてしまうがゆえに、曽爾を改めて知ってもらうことをテーマに授業を考えたとのこと。

・生徒が書いた批評文

教科書の批評文に関する学習ののち、生徒が書いた批評文を共有した。批評文をその後の「曽爾村をどうしたいのか？」という話し合いの素材となればと思い、書かせた面はあったものの実際には生徒の関心事について調べた部分が強かった。ただし、授業では取り扱っていなかったが、ほとんどの生徒が感想としてSDGsと関連付けて批評文を書いていたとのこと。

・活動している人たちとの出会いと生徒のモチベーションについて

生徒たちが「曽爾村のために何かしたい」というモチベーションがあるか？という点については、なかなか難しいというのが現状である。生徒が地域の課題について自分ごと化しているとは言い難い。地域の課題を生徒たちに直面させるのがなかなか難しいと感じたため、地域で活動している方々の話を聞く機会を作った。生徒たちはこれまでも、その方々の活動に参加する経験などはあったが、今回は「なぜ、その活動をおこなっているかを初めて知った」という声があった。

その出会いから、最終的にどのような行動化につながるかが楽しみであるという声があった。

・国語科としてESDに取り組むこと

地域のことについて自分で批評文や思いを文章化することで、自分ごと化が進み、行動変容にもつながるのではないかという意見があった。国語という単元を活用してうまくESDを進めているのではないかという意見があった。一方で、授業を通じて色々なことに取り組むと評価の面など非常に難しくなるケースもあるので、ある程度身につけさせたい力を絞ると授業が進めやすくなるのではないかという助言もあった。

・へき地教育と地域の学びについて

地域について学ぶことが、中学校で終わってしまう。私立であれば小学校で地域の学びが終わるので、地域のことを知らずに育って行ってしまう。高校へ行く前に地域について学ぶのであれば、卒業式などで、曽爾の良いところを発表する機会を設けるなどすれば良いのではないかという意見もあった。また、地域に住んでいる高齢者の方々の話を録音して文章化する「聞き書き」についても提案があった。